令和３年１０月２９日（金）

文化発表会講評

学校長　下村　昌弘

○　全校の皆さん、声は聞こえますか。私の方から、一言、講評を述べたいと思います。オンラインですので、少しゆっくり話します。

○　今年は「中央に恋する文化発表会」をスローガンに開催されました。果たして、各クラスの人たちは、聞いている人が「恋をしてみたい」と思えるような、思いのこもった合唱ができたでしょうか。

○　今年の文化発表会は、計画段階から、新型コロナ感染症の第５波という、この一年半で最も感染者が増加している状況でしたので、残念ながら、昨年以上に、規模を縮小した形での実施となりました。

○　今般のコロナ禍ではやむを得ないこととはいえ、本日のオンライン配信の不調と相まって、皆さんには迷惑をかけてしまったことをたいへん心苦しく思っています。みなさん、申し訳ありませんでした。

○　しかし、そうした状況にもかかわらず、「かえって合唱や作品制作に専念できる」と、前向きに準備をしてくれた皆さん、午前中も急遽、体育館に移動してもらいましたが、臨機応変に対応してくれた皆さんをとても心強く、誇らしく思いました。みなさん、本当にありがとう。

○　さて、その文化発表会、皆さんは楽しんでくれたでしょうか。

○　まずは合唱コンクール。７年生、初々しい歌声でした。声変わりの途中にある人もいたのではないでしょうか。ちょっとはにかむような歌声がとてもフレッシュでした。

○　８年生。落ち着いた歌声でした。腹の座った、潔い歌声。学校生活の終盤に差し掛かった人たちの気概といったものを感じました。

○　そして９年生。さすがです。圧巻でした。学校のリーダーとしての貫禄、自負を感じました。まさに堂々とした歌声に９年間の完成を感じました。

○　そしてどのクラスにも、学級のまとまり、心を合わせてきたこれまでの道のりを感じました。

○　あるクラス担任の先生からは、「大きな声を出すためには信頼が必要だ」という激励の言葉がありました。なるほど、そうかと思いました。安心してモノが言えるためにはお互いの信頼がないといけません。歌う時も、お互いが認め合うからこそ、安心して大きな声が出せるし、美しいハーモニーが生まれるのです。

○　そういう意味でも、皆さん一人ひとりが、クラスのために、みんなのために心を合わせて頑張る大切な経験をしてくれたのだなと思いました。

○　それから、作品制作の部について一言。

○　今年は１年生から９年生までが、それぞれの学年でテーマを決めて、独自の取組成果を発表展示してくれました。

○　どの人の作品も、どのクラスの製作物も、一つ一つが個性に満ち溢れた、素晴らしい出来栄えでした。とても心が満たされました。よかったです。

○　それに花を添えるように、書道の作品や委員会・部活動からの作品が、会場を賑わわせてくれました。まさに「文化」の発表にふさわしい「会」だったと思います。

○　「文化」という日本語は英語で何というか知っていますか。それは「culture（カルチャー）」です。その「カルチャー」には、もともと「耕す」という意味があります。つまり、「文化」とは「心をカルチベート（耕した）する」ことなのです。

○　どうかみなさん、これからもしっかりと心をカルチベートして、充実した学校生活を送ってください。

○　最後になりましたが、この文化発表会を成功に導いてくれた生徒会役員の皆さん、お疲れさまでした。大変だったと思います。コロナ禍の様々な制約の中、本校の歴史に残る素晴らしい文化発表会でした。ありがとう。

○　長くなりました。以上をもちまして、文化発表会の講評とします。素晴らしい発表会でした、ありがとう。